

挑戦と前進



びりのきもち 阪田寛夫

びりのきもちが わかるかな
 みんなのせなかや 足のうら
 じぶんの鼻が みえだすと
 びりのつらさが ビリビリビリ
 だからきらいだ うんどうかい
 まけるのいやだよ くやしいよ
 おもたい足を 追いぬいて
 びりのつらさが ビリビリビリ

「ビリ」とは最下位のこと。熊本を含めた西日本では主に「ドベ」、熊本弁で「ドベコス」なんて言います。ビリは悔しい。ビリが悔しいから勝つことはうれしいのです。しかし、今年の北中にビリはいたのでしょうか。

緑団優勝 一の七、二の六
 三の三がそれぞれ学年優勝
 優勝した団 学年の大きな喜
 びの中で、体育大会は幕を閉
 じました。
 当日は暑い中、そして観覧
 制限の中でも、開会式前から
 閉会式後まで多くの保護者
 の皆様にご観覧いただきあり
 がとうございました。



また、今回は新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、縦割り種目の一致団結を行わず、団長も設けませんでした。苦渋の決断でしたが、子どもたちはこれを受け容れてくれました。自分たちができる最大限の努力をしてくれたと思います。体育大会の強い思いは多くの子どもたちが持っています。それでも、彼らは置かれた状況で精一杯の努力をしてきたのです。

練習期間は、わずかに九日足らず。例年よりも確実に時間がありませんでした。特に三年生は大変です。ダンスに加え、何と云っても学級パフォーマンスがあります。初めての試みで、前例もなく白紙からのスタートです。

担任も頭を悩ませました。しかし、子どもたちから多くのアイデアが出され、一人一人が笑顔で演技しました。前日の練習で初めて見た私は、気づけば涙と鼻水、これをやり遂げた三年生の底力を見ました。

当日は、一、二年生の澆刺とした様子はもちろんのこと、三年生各学級のパフォーマンスを、全校で見守り讃える雰囲気、また涙と鼻水…。



順位を上げる以上は、最下位があります。当然悔しい思いはあったでしょう。しかし、「じぶんの鼻がみえだすと」という詩のようになを向いている北中生は、誰一人いませんでした。北中生に「ビリ」はいないのです。



今日の挑戦
 北中またビリはなし

職員卒ODAY 大会後の昼食時、競技に負けた悔しさを引きずる声あり。「合唱コンクールこそ…すでにリベンジさえ誓っている子どもが皆良い顔して頑張ったからそれではない。そんな教師としての思いもありつつ、心の中で消えない悔しい思いを抱えた担任教師は、しつこいのです。